

施工比較表

	新技術 植物由来・非塩化物系凍結防止剤 「らくらくと〜るくん」	従来技術 塩化ナトリウム
保管段階	<p>成状が液体であるためタンク保管となり、重ねて保管可能。散布前の散水車への補給の際は吸引ができるので、高所に保管する必要はない。不燃性液体であり、法規制による専用保管場所は不要。</p> 	<p>成状が固形であるため、フレコンバッグでの保管となり、袋を損傷すると、中身が凝固し産業廃棄物になる恐れがある。散布車への補給の際は、散布車上部のホッパーへの投入となるため、高所保管施設やクレーンが必要となる。</p> 
評価	向上	-
散布機への補給	<p>散水車装備の吸引ホースで補給する。散水車に吸引ホースが装備されていない場合は、吸引移送機にて補給する。既存の保管施設が高所の場合、タンクからの流し込みも補給は早い。</p> <p style="text-align: center;">散水車への補給 吸引移送機</p> 	<p>高所よりクレーンを用いて、散布車上部のホッパーへ投入する。フレコンバッグを吊り上げた状態で、袋下部を切り開き補給する。高所での作業となり、作業者の落下や袋の切れ端等の異物混入に注意する。</p> 
評価	向上	-
散布技術	<p>腐食性がないので散布量の制限はなく、既存の散水車を有効活用した通常の散水技術で散布できる。経済的な散布を行う場合は、吐出量のノズル調整や車速度の目安を決める。散水車での散布操作は、単純機能。</p> 	<p>散布量に一定の規定があり、特殊機能を装備した専用散布車がある。規定内の散布量を踏まえ、路面凍結ポイントを熟知し、散布量を変更しながらポイントを絞った散布を行う。専用散布車での散布操作は、熟練の経験を要する。</p> 
評価	向上	-
散布の確認 (散布中・散布後)	<p>散布中の散布確認は、散水車搭載のバックモニターで確認する。散布後の散布確認は、目視による路面の濡れ具合や若干の液体色、指触による粘稠性にて確認する。</p> <p style="text-align: center;">バックモニター</p> 	<p>散布中の散布確認は、専用散布車搭載のバックモニターで確認する。散布後の散布確認は、飛散粒の目視にて確認する。</p> <p style="text-align: center;">バックモニター</p> 
評価	同等	-
効果確認	<p>路面の目視や指触にて確認する。</p>	<p>路面の目視や指触にて確認する。</p>
評価	同等	-
散布機の管理	<p>散布日間隔をあけた継続散布を行う場合は、散水車タンクに残量が残っていても、排出廃棄する必要はない。液体の凝固点が低いため固結せず、品質に影響もなく、散水車タンクに残った分に継ぎ足して利用できる。塩化物を含まない凍結防止剤であるため、機械への腐食影響もない。散布業務終了時は、液体の粘稠性によるべたつきが残るため、散水車を水洗浄する。</p>	<p>腐食や劣化の進行が著しいため、散布作業後すぐの車体洗浄が義務付けられており、寒冷地における深夜・早朝作業を考慮した洗浄方法にて洗浄作業を行う。</p>
評価	向上	-